

## 第 27 回九州山口ハイパーサーミア学会

### 集学的治療が奏功した脳転移を伴う大細胞肺癌の一例

社会医療法人共愛会 戸畑共立病院 臨床工学科 垣下ひかる

共同演者

臨床工学科 川崎玲、樋口優子、大田真

放射線科 森岡文明、鞆田義士、成定宏之、今田肇

症例は 60 代男性、2012 年 5 月に他院にて右側後頭葉皮質下に腫瘍が確認され手術施行。精査の結果、大細胞肺癌による脳転移と診断。6 月に大細胞肺癌の治療目的で当院初診し温熱化学放射線治療。放射線治療（60 Gy/30fr.）、化学療法（PAC/CBDCA）、温熱療法は 2012 年 6 月から現在まで計 42 回、平均出力 689W、50 分で施行。8 月、転移性脳腫瘍が再発し、サイバーナイフ施行後、腫瘍消失。現在は大細胞肺癌に対し温熱化学療法継続中。

本症例で病勢が制御可能となった要因として、頭蓋内転移病巣を手術と放射線治療で完全制御しつつ、温熱療法を加えた集学的治療で、胸郭内病巣も治療できた為であると言える。また初期治療後の外来での維持温熱化学療法も、再発防止に貢献していると考えられる。